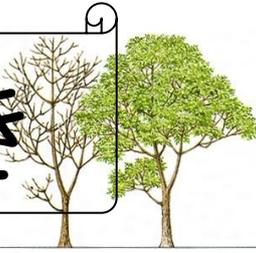


せんだんのき



中原小学校 学校だより

令和8年3月6日

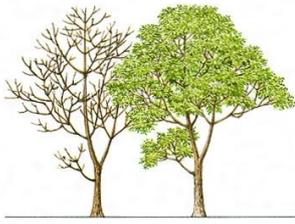
TEL 42-2110

令和7年度 学校評価について

2月26日(木)に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)兼学校評議員会を開催しました。学校評価については、12月に実施の児童・保護者のアンケート結果や職員の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示しました。それらについて各委員の方々からご意見をいただきとりまとめましたので、ご報告させていただきます。

項目	自己評価	学校等関係者評価
成果 (強み)	地域を題材にした学習活動に取り組み、まちづくり協議会・公民館・社会福祉協議会などを窓口として豊富な人材を得ることができた。子どもたちは地域と関わる学校行事は特に強い興味関心を持って取り組んでいる。このような体験活動から探究活動へと展開する学習にとりくむことができた。	<ul style="list-style-type: none">・地域と学校が連携した体験学習や学習講座が多いのは、児童にとってよいことだ。これからも続けてほしい。・今年度、裁縫ボランティアに手厚く支援していただいたおかげで、5・6年生も困り感なく家庭科作品が製作できた。来年度は早々に、さらに活動分野を広げたボランティアを募集していく。
課題 (弱み)	基本的な生活習慣や学習習慣の定着について、学校からの啓発活動をすすめているが、まだまだ改善の余地がある。特に、早寝・早起き・朝ごはんや家庭学習、家庭での読書習慣(家読)などについては、引き続き、保護者・家庭へのはたらきかけや意識づけにとりくんでいく必要がある。特に家庭での読書の習慣づけが課題である。また、不登校等の様々な課題を抱えた子どもたちの居場所作りや学力進路保障も含めて、学校としての柔軟な対応の模索が求められる。	<ul style="list-style-type: none">・様々な課題を抱えた児童は長い目で見てあげないといけない。6年間では大きな成長があり、卒業時には「成長したなあ」と思える様になっている。日常の細かい行動に一喜一憂しがちだが、暖かい目で見守っていききたい。・放課後に中原文化センターに遊びに来る児童が数名いる。やんちゃな行いがあったので、施設の使い方を教えたら、その後節度を保って利用するようになった。学校とは違う公共の場所で、だめなことはだめとってもらえる場所があるのはありがたい。放課後の遊び場所として、文化センターを大いに活用してもらえればありがたい。
改善策	今後も学校だより、メール配信、タブレット、Web ページなどの活用によって、情報共有できる環境をつくることで、保護者・家庭・地域との連携を図っていききたい。また、学力の定着をめざし、タブレットのドリル教材等を家庭学習等にも活用し、個々に応じた学習課題にとりくむことで、個別最適化を推進し、誰一人取りこぼさないようにしていく。読書については引き続き委員会や司書の活用も行っていく。今後もさらなる地域学習や体験学習を推進する上で、人材発掘等をすすめていく。	<ul style="list-style-type: none">・学校で「こうしてほしい」ということがあれば遠慮なく声をあげてほしい。可能な限り支えになっていきたい。



項目	自己評価・達成状況	学校関係者評価
豊かな心と体	<p>①「学級の仲間とだれとでも楽しく過ごしている」については児童55%(93%)、保護者56%(90%)の回答がある。また、相談できる友だちがいる児童が53%(88%)いる。中学校区9年間の人権教育カリキュラムを確認し、実践ができた。</p> <p>②特別な支援が必要な児童についての指導計画を策定し、職員会議、研修会の場で情報共有を定期的におこなった。</p> <p>③早寝・早起き朝ごはんについては児童69%、保護者85%、教職員84%の回答である。児童・保護者へのさらなるはたらきかけが必要である。</p>	<p>・アンケート項目「学校が楽しい」については児童56%(91%)保護者56%(90%)教職員50%(100%)の回答があるが、児童の「そう思う」56%が少ないのではないかと。最近では(特にコロナ禍以降)、子どもにとって家が居やすくなった気がしなくもない。兄弟が少なくなった昨今、鍛える場は大切である。何らかの形で今以上にステップを上げ、競い合う場ややる気を上げる場を作るのも必要だ。地域で支えていくので、日ごろの人間関係を掴んでいる先生方には、ぜひ子どもを鍛える場を増やし、競う楽しみも含めて「学校が楽しい」ところにしてあげてほしい。</p>
確かな学力	<p>①「学習がわかる」という項目については児童43%(90%)、保護者40%(88%)の回答がある。さらに「能動的な聴き方」を大切にした授業改善を継続する。</p> <p>②教職員の適切な支援については58%(100%)の回答となった。</p> <p>③タブレットの授業での活用並びに家庭学習におけるドリル教材の計画的な活用を継続して実施した。</p>	
人と人とのふれあい	<p>①全学年が授業規律としての「中原スタンダード」に沿って授業を行うことで、学年が進んでも統一されたルールで授業ができた。</p> <p>②出前授業として17回、体験学習として20回地域の方にお越しいただくことができた。</p> <p>③児童会主催の運動を展開した。あいさつができるという回答は、児童が57%(88%)、保護者が40%(83%)教職員42%(92%)であった。</p>	<p>・中原小は地域とよく連携している。行事等を通して児童が育っていることは嬉しいことだ。また、関わった地域の方が保護者からお礼を言われるのも嬉しい。ただ、しめ縄作りや餅つきなど、適した季節があるもの以外は暑さ、寒さを配慮しながら行事を分散させていくように、年間計画を見直していくことも必要だ。</p>
特色ある教育課程	<p>①安心・安全な学校づくりについては、保護者39%(87%)、教職員75%(100%)の回答がある。地震・津波、火災、不審者を想定した避難訓練を3回実施し、一次避難は3分程で完了できた。</p> <p>②理科や家庭科において環境についての学習を行っている。</p> <p>③教育講演会や異世代交流会などを実施した。</p>	<p>・11月の助産師さんによる教育講演会(PTA主催、中原文化センター共催)は大変いい内容だった。せっかくなので保護者の参加がもっと欲しかった。今後はさらなる呼びかけが欲しい。</p>
連携した教育	<p>①全学年が地域を題材にした学習活動が実施できた。</p> <p>②児童の活動を最大限に保障し、20回の体験学習、18回の校外学習、17回の出前授業、12回以上の児童会・委員会主催のたて割り班活動を実施した。また、縦割り班掃除を実施した。</p> <p>③図書委員会主催の図書フェスティバルを開催した。また、月1回の読み聞かせボランティアの活動、司書による読書感想文の指導も行った。</p>	

※アンケートの数値は、例 67%(93%) **63%が「そう思う」の数値、(93%)が「どちらかと言えばそう思う」を加えた肯定的な回答の数値**を表しています。